

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591500271		
法人名	社会福祉法人 光仁会		
事業所名	グループホームさるびあ		
所在地	周南市城ヶ丘3丁目6番1号		
自己評価作成日	平成29年8月25日	評価結果市町受理日	平成30年2月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成29年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と家族が意見や要望を言いやすい環境づくりを継続することで、個々の潜在的なニーズの把握に努め、これまでの人生で培ってきた誇りを大切にandrae、介護計画に反映することが出来るよう努めている。季節感あふれる行事計画や個別の外支援助を充実させるとともに、地域の方と共同して行事へ積極的に参加する機会を増やすことで、利用者自身が地域の一員であると感じることが出来るよう、支援している。利用者の思いや個々の生活スタイルや、一人ひとりが何らかの役割を持つことと、そのことに対する感謝の言葉がけを大切にしながら、毎日が笑顔の絶えない充実した生活が送れるように支援している。職員は積極的に外部研修に参加するとともに、現場の状況に合わせた実用的な研修や、職員の段階に応じた研修と指導を行って、職場全体の介護技術や知識の向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人として自治会に加入され、自治会の集会や地域の夏祭りの調理場所として法人施設を提供されています。職員は、地域のクリーン作戦に参加されたり、管理者は地域の防犯ボランティアグループに加入されて、地域活動に参加協力しておられます。利用者は、地域の夏祭りやどんど焼き、桜木フェスタなどに出かけられて地域の人と交流されたり、地域の人が事業所に笹竹を持参されて、利用者と一緒に七夕飾りづくりをしておられる他、法人が開催している「いきいき百歳体操」では、利用者と地域の人が一緒に体操を楽しんでいるなど、日常的に地域の一員として交流しておられます。法人施設を災害時の地域住民の避難場所として協定を結ばれている他、避難訓練には地域の人が参加され、避難時の利用者の見守り役として協力をえられたり、緊急時の自動通報装置に地域の人が加入されるなど、災害時の地域との協力体制を築いておられます。職員に外部研修や法人研修、内部研修の機会を提供され、職員は働きながらスキルアップできるように取り組んでおられ、サービスの質の向上につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議の冒頭に事業所理念・運営基本方針を唱和することで専門職としての自覚を促すとともに、重点目標を設定し職場全体で実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた法人理念を事業所理念とし、具体化するために事業所の運営方針と重点目標を設けている。月1回のスタッフ会議で唱和し、カンファレンスで理念に基づいたケアについて話し合い、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティア活動の協力を得ながら、利用者と地域の方との交流を図り、地域の方と共に行うイベント等で交流を維持している。近所の公園や近隣の散歩を通して、地域の方と、職員と利用者が挨拶等で会話を交わすことで日常的な交流もできている。事業所においては、地域行事やイベントに事業所自体が地域の一員として共に参加することで交流が出来ている。	法人として自治会に加入し、職員は地域のクリーン作戦に参加している。自治会の集会や災害時の地域の避難場所として法人施設を提供したり、地域の夏祭りでは調理場所として提供をしている。法人内で「いきいき百歳体操」を開催し、利用者や地域住民が参加している。事業所の管理者が地域の防災ボランティアグループに入り、地域活動行事に参加、協力をしている。利用者は、地域の夏祭りやどんど焼き、桜木フェスタなどに出かけたり、小学校の運動会の見学に出かけて、地域の人と交流している。ボランティア（日本舞踊、フラダンス、南米楽器演奏、しゃっきり体操、将棋、ちぎり絵など）の来訪がある他、大学生の実習を受け入れている。周辺の公園に出かけたり、散歩時などでは地域の人達と挨拶を交わしている。玉ネギ等の差し入れがある他、地域の人が笹竹を持参し、利用者と七夕飾りづくりをしているなど、地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣自治会のいきいきサロンの活動として、事業所を訪問していただいた際に、認知症のご利用者に対してグループホームが行うの援助について説明したり、重度の方へ提供する介護食を試食していただくなどして、認知症の方への支援について理解を深めるよう努めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	以前ご指摘して頂いた、問題点や課題について、具体的な改善に向けて積極的に取り組み改善した。新たに入職した職員には、外部評価を実施する意義を理解できるよう事前に説明を行うことで、職場全体で自己評価の実践状況の把握に取り組んだ。	管理者は評価の意義について職員に説明し、全職員に自己評価をするための書類を配布し、全職員に記入してもらい、管理者とユニットリーダーが話し合ってまとめている。職員は、評価を日常業務の振り返りと捉えている。前回の外部評価結果を受けて、職員間で話し合って目標達成計画を作成し、運営推進会議のメンバーの拡大など、改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成28年度の目標達成計画に運営推進会議の地域メンバーの拡大を課題として取り組み、事業に知見を有する周南市介護相談員や、地域住民の代表として所属する福祉委員の方にも運営推進会議に参加して頂き、多方面からの意見交換と情報交換を行うことでサービスの質の向上に活かせるよう努めた。	新たに介護相談員2人、民生委員、福祉委員の参加を得て、法人内施設合同で会議は2ヶ月に1回開催している。事業所の現状、利用者状況、事故報告、行事報告、研修報告、夜間想定避難訓練、外部評価結果などの報告をし、話し合いをしている。メンバーから不審者対応を学ぶ必要があるのではという提案があり、法人の担当者と事業所の管理者が地域の防犯ボランティアグループに加入し、協力について話し合っているなど、サービス向上に活かしている。	・家族参加の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くことにより、事業所の実情やケアサービスの取り組み内容を報告している。提出書類や更新申請等で周南市役所の地域福祉課へ出向き、必要に応じて相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議時の他、出向いて相談し助言を得たり、電話やメールなどで情報交換をしているなど、協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の他、法人行事での協力等について情報交換しているなど、連携している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修で身体拘束について学び、職場で理解を深めている。安全第一を考え常に利用者の見守りや声掛けを行ってケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠せず、自由に行き来することができる環境を作り、防犯対策としては19:00～翌朝7時までは玄関を施錠して安全を確保している。本年度は9月に身体拘束についての内部研修を予定している。	職員は、内部研修で身体拘束について学び、理解をして抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者には、職員が一緒に出かけている。スピーチロックについて、管理者やリーダーが指導している他、職員間でも話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の気持ちに寄り添い、常に傾聴する姿勢でケアに取り組んでいる。職員全体で同じ意識を持ちながら、虐待の防止に努めている。本年度は1月に虐待防止についての内部研修を予定している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は成年後見制度の対象者はいないが、将来的に対象者には制度を活用できるよう、研修等に参加して、成年後見制度の理解を深めたいと考えている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や解約の際には、利用者や家族の疑問にその都度答えながら、時間をかけて丁寧に説明を行い、十分な理解を得ながら進めることで、入居後また退去後の生活の不安が軽減出来るように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに苦情受付担当者、苦情解決責任者を設け、受付態勢を明確にし、玄関前に掲示している。またご意見箱の設置と、毎月発行されるさるびあ便りにも、ご意見・ご要望が言いやすいよう掲載して、ご意見・ご要望を反映できるよう努めている。	相談や苦情受付体制、処理手続きについて定め、契約時に家族に説明している。面会時や事業所だより送付時、電話やメールなどで、家族の意見や要望を聞く機会を設けている。玄関に職員の写真と名前を掲示して、家族とのコミュニケーションづくりに努めている。ケアに関する要望には、その都度対応している。運営に反映させるまでの意見や要望は出していない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のスタッフ会議の中で、業務改善提案の集約や、職員から個別での相談や提案にも応じることが出来るよう管理者やユニットリーダーは職員から聞く機会を設け、それらの改善に取り組んでいる。	管理者やユニットリーダーは、月1回のスタッフ会議時や朝の申し送り時、日常業務の中で職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。職員の勤務体制の変更など、反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の段階に応じた職責を確立させたキャリアパス基準を整備して、仕事の業績を適正に評価し、その結果を人事、任用、給与に反映させている。また年度毎に法人各事業の運営について職員に向けて報告を行い、個々の職員の努力が業績に反映されたことを理解できる機会を持ち、意欲の向上を図っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を月に一度スタッフ会議と併せて実施している。職員の段階に応じて必要な外部研修に参加の機会を作り、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、段階に応じ勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は月1回の職員会議時に復命報告をし、資料は閲覧できるようにしている。今年度は認知症介護実践研修や中堅職員研修、介護支援専門員研修など15回参加している。法人研修は、普通救命法、感染症など年8回実施している。内部研修は、年間計画を作成し、月1回接遇マナー、認知症ケア、身体拘束などを実施している。新任研修は各ユニットリーダーの指導の下で1～2週間、介護知識や技術を働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業者の方と支援計画作成の勉強会を行うなどの交流を深め知識の向上に努めた。ネットワーク作りはまだ十分に行われていないが、今後の課題として取り組んでいき、サービスの質の向上に努めたい。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申込時には、本人の意思を聞き取ると同時に適切なサービスが提供できるように情報収集を行い、ケアに取り組んでいる。入居時には、安心して生活がスタートできるように環境作りや、本人の思いと要望に添えるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時には、ご家族の思いや要望、自宅で困っていること、不安に感じていることを聞き取ると同時に、適切なサービスが提供できるように情報収集している。入居後もご家族とは連絡を取り合い、遠方のご家族にはメール等で細かな情報交換を行いながら、不安なく生活がスタートできるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の情報収集の段階や入居に際して「その時」必要としている支援を見極め、本人とご家族の、要望や意向に沿えるよう柔軟な対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	心のつながりを大切にしつつ、日々の生活の中で、出来る事をそれぞれの役割として担っていただき、また労いの言葉がけを通して関係を作り、共に生活する者同士であることを意識した生活が送れるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族と本人の思いを情報共有しながら、共に本人を支え合える関係を保つことで、本人と家族がより深く継続的に関わる事が出来るよう支援している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方との交流が途切れないよう、定期的に地域との交流に努めている。家族や親戚、友人や知人と電話や手紙などで交流が継続できるよう支援している。また、家族の協力を得て、定期的な墓参り、行きつけの美容院や教会、外食や温泉に出かけることで、馴染みの人や場所の関係が途切れないよう支援している。	家族の面会や兄弟、孫、親戚の人、友人、知人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援をしている。馴染みの美容院の利用、教会の礼拝に行く、家族の協力を得ての外出、外食、一時帰宅、外泊、行きつけの美容院の利用、墓参りなど馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の特性やそれぞれの関係性を把握し、職員が必要に応じて関わり、一人ひとりが孤立することなく利用者同士がお互いに支え合える場を保てるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居に伴い契約が終了された方に関して、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりにケース担当を定めて、定期的に本人と会話の機会を作って、思いや意向の把握をしている。また日常の関わりの中で利用者の行動や発言、思い等の細かな状況を個別に記録し、それを職員間で共有して検討することで、本人本位であることを大切に考え、かつ適切なサービスが提供出来るように努めている。	入居時のフェイスシートや基本シート等を活用している他、日々の関わりの中での利用者の言葉や行動、表情、様子などの気づきを個別経過支援記録に記録して、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族からの情報を得て、職員間で本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や在宅での生活の様子について、本人と家族や、過去のサービス関係者から情報を収集している。知り得た情報を元に環境整備することで、馴染みの生活が継続的に出来るよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で、一人ひとりの生活状況や、心身の状態と変化、その有する能力を個別に記録し、職員間で情報共有することで、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く生活が送れるよう現状の把握と検討を重ね、介護計画に反映できるよう努めている。介護計画に設定するサービス内容における実施状況を、ケア目標に照らして日々チェックすることで、介護計画に基づく実践とその結果を客観的に評価している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に月1回、カンファレンスを開催し、本人や家族の意向、主治医や看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。モニタリング表で毎日のサービス内容の確認をし、3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している他、利用者の状態や要望の変化に応じて、その都度見直しをして現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の様子やケアの実践と結果、気づきや工夫を、日々個別に記録して職員間で情報共有することで、把握に努めている。日々の評価と、ケアカンファレンスによって課題抽出し検討することで、現状に即した介護計画の作成や見直しを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調の変化に合わせて、医療機関の受診介助や送迎介助、訪問理美容や歯科往診等、本人のニーズに対応できるよう柔軟な支援を実施している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所の支援だけでなく、地域の行事や地域の方と共に行う活動等、身近な社会資源を把握し活用することで、心豊かな生活の中で楽しみを見つけられるよう努めている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内の医療にとどまらず、馴染みのかかりつけ医の受診を家族の協力を得て継続が出来るよう支援している。また情報提供と共有により連携を図り、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けることが出来るよう支援している。	事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回の訪問診療と訪問看護がある。受診時には経過記録を基に、利用者の状態を医師に口頭で伝えている。月1回、訪問歯科診療を受けている。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は電話で家族に伝えている。職員間では服薬ボードや個別記録で共有している。緊急時や夜間時には協力医療機関に連絡をし、指示を得て対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は職場内の看護師や訪問看護師と情報を共有し、相談しやすい関係性が構築できている。適切な受診や看護を受け、迅速に対応できる体制を整えている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時にはサマリーにて情報提供を行うなど、安心して治療が出来るよう、医療機関との連携に努めている。入院中に退院後の支援に備えて、看護師と職員が入院先へ訪ねて情報交換を行うなど、利用者の状況把握に努めている。退院後は医療機関からの情報により状態を把握することで、適切なケアの提供に努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、事業所の終末期指針を説明して事業所が出来る対応について、家族に説明し納得を得ている。実際に重度化した場合は、入所施設や医療機関への移設も選択肢に含めながら家族と十分に話し合い支援している。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応指針」に基づいて事業所でできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師等と医療機関や他施設への移設について話し合い、方針を決めて共有して取り組むこととしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	看護職員を講師とする内部研修や、消防署の協力を得て行う外部研修を定期的の実施し、救急救命法やAED訓練等、応急処置や緊急時の対応についての実践力を高めるよう努めている。また事故発生時には速やかに報告書を作成して改善策の検討を行い、実施することで再発防止に努めている。8月には新人職員に向けて緊急時対応手順の研修を実施した。	事例が発生した場合は、インシデント、事故報告書にその日の職員間で対応策について検討して記録し、申し送り時に報告し、回覧して共有している。月1回のスタッフ会議で再検討し、利用者一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、法人研修や内部研修で感染症、緊急時の対応、食中毒、熱中症などを実施しているが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための 応急手当や初期対応の定期的訓練 の継続

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練と初期消火訓練を実施すると共に、地域住民に協力を仰ぎ災害時の協力体制を強化している。また災害時に備えて非常食を備蓄している。本年度は5/24に夜間想定した避難訓練をすでに実施しており、9月に日中を想定した避難訓練を予定している。	法人施設合同で年1回、消防署の協力を得て、夜間想定した避難訓練を実施している他、年1回の昼間想定した避難訓練時を実施し、地域住民5人が参加し、利用者の見守り役として協力を得ている。法人として災害時の地域住民の避難場所の提供をしている。法人の緊急時の通報連絡装置に地域住民の加入があるなど、協力体制を築いている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症ケアの理解を促すと共にコミュニケーションをとる際の指導を行っている。一人ひとりの人格を尊重し人生の先輩として敬意を払って関わり、思いやりと温もりのあるケアの実践を心掛けている。日常のケアの中で不適切な声掛けや対応があれば、職員間でお互いに注意し合い、適切なケアが提供できるよう努めている。	職員は内部研修で接遇や認知症ケアについて学び、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な声掛けや対応があれば管理者やユニットリーダーが注意している。個人記録の保管や取り扱いに注意し、守秘義務についても遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思いや希望を表現できて、自己決定の機会がひとつでも増えるよう、利用者の状態に合わせて、分かりやすい言葉や表現で関わりを持つよう努めている。また表情や仕草から読み取れる本人の思いを大切にしながら、家族と連携を図り適切な支援を実施している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活習慣の把握と、体調や変化に応じて、自分のペースでその人らしい生活が送れるよう希望にそって支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさとは何かを考え、日々の衣服選びと外出時の身だしなみやおしゃれの継続が出来るよう支援している。希望者には月に一度訪問理美容による散髪の実施や、髪染めや個々のニーズに合わせて対応できないものに関しては行きつけの美容院に継続して通うことが出来るよう家族と連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望のメニューを委員会活動で検討して取り入れたり、季節感のある献立を計画することで、食事が楽しみのひとつになるよう工夫している。昼食作りやおやつ作りも楽しみの一部として取り組んでいる。食事の準備や片付けを共に行い、個々の活躍の場を意識している。美味しく楽しい食卓となるよう盛り付けや環境づくりの工夫を行っている。	食事は三食とも配食を利用し、形状の工夫をしている。事業所でご飯と汁物はつくっている。利用者はテーブル拭き、トレイ拭き、おしぼり巻き、下膳、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。季節の行事食(そうめん流し、おせちなど)、家族が参加しての食事会(敬老会)、移動パン屋の利用、ピクニックなどの他、家族の協力を得ての外出など、食事が楽しみなものになるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体調や生活習慣、要望に合わせて配茶を行うなど、水分摂取量の把握をしながら支援している。嚥下状態の把握をすると共に安全に食事が出来るよう食事形態の調整を行い、自力摂取を促しながら見守り支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後個々の状態に応じた方法で口腔ケアを実施している。入居時には協力歯科による歯科検診の希望を書面で行って、希望者には歯科検診の実施をして、嚥下機能や咀嚼機能と口腔内の把握を行って、指導をいただきながら支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、利用者一人一人の排泄パターンを把握している。排泄の失敗がないよう、声掛けを工夫しながら誘導を行うことで、排泄の自立に向けた支援をしている。	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握して、一人ひとりに応じた声かけをして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用して排便の記録を色分けすることで、職員が排便状況の把握に努めている。また水分摂取量を併せて記録して、運動や水分摂取量、その他及ぼす原因を理解して、食生活や日常生活から便秘の予防に繋ぐ取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に3回は定期的に入浴ができるよう計画を立て、本人の希望や体調に合わせて清拭や足浴を行い、本人の意思を尊重しながら、入浴を楽しめるよう支援している。時には入浴剤やゆず湯などの計画を立てて、入浴することを楽しみの一つとして取り組んでいる。	入浴は毎日、10時から11時30分までの間と、14時30分から16時の間可能で、週3回はゆっくりと入浴できる支援をしている。季節によっては柚子や入浴剤を使用しての気分転換の支援もしている。体調に応じてシャワー浴や足浴、清拭などの対応をしている。入浴したくない人には職員の交代、時間の変更、言葉かけの工夫して支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別記録を活用して、日中の活動量や個々の生活スタイルを把握するとともに、体調や精神面にも配慮を行いながら、安心して気持ちよく眠ることが出来るよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している内服薬の把握をするとともに、副作用や用法用量を服薬ボードで確認しながら、服薬支援している。状態の変化に伴う、内服薬の変更がある場合には、個別記録に重点的に記録することで、看護職員と職員間で情報を共有し必要に応じて主治医に報告と相談をして医療との連携を図っている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者が長年培ってこられた習慣や趣味などを継続することでその人らしい暮らしの継続と、能力に応じての手作業、誕生会やカラオケ大会、個別での外出支援、ボランティア慰問の参加等を通して、日々の暮らしの中で楽しみや役割を持ちながら、張り合いのある日々が過ごせるよう支援している。	テレビ視聴、新聞や週刊誌を読む、写真集を見る、百人一首を書き写す、歌を歌う、カラオケ、習字、ちぎり絵、折り紙、ぬり絵、パズル、脳トレ(計算、漢字など)、七夕など季節の飾りづくり、編み物、雑巾縫い、ボタンづけ、プランターでの花や野菜づくり、ゴミ捨て、おやつづくり、トレイ拭き、おしぼり巻き、モップかけ、手すり拭き、シーツ交換、洗濯物干し、洗濯物たたみ、新聞紙のゴミ袋づくりなど、活躍できる場面づくりをして、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の要望を把握し、墓参りや教会、行きつけの美容院、一時帰宅や外泊等、家族の支援を得ながら実現に向けて、個別に外出できるように連携を図っている。季節の花見や、日用品の買い物支援や地域の行事に積極的に参加して、戸外へ出かけられるよう支援している。	周辺の散歩、ゴミ捨て、買い物、四季の花見(桜、コスモス)、地域の夏祭り、桜木フェスタ、教会に行く、初詣、行きつけの美容院の利用、家族の協力を得ての外出、外食、一時帰宅、墓参り、馴染みの美容院の利用など、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金規定のもと希望に応じて家族よりお金を預かっており、外出時や日用品の購入をしている。出納職員を設け金銭の管理は事業所の金庫にて行っている。週に一度の移動パン屋では、パン選びから支払いまで一連の買い物を楽しむことが出来るよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と、本人の希望に合わせて自由に電話や手紙のやり取りができるよう取り次ぎなどの支援している。携帯電話をお持ちの方には、定期的に充電の声掛けを行い、いつでも連絡が取りあえるように促している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活室には季節に合った飾りつけをすることで季節感のある環境作りを行っている。廊下や共同生活室には移動の合間にも休憩できるようイスやソファベッドを配置して、温度や湿度等不快を感じないよう配慮を行うことで、心地よい空間作りに努めている。	玄関に全職員の写真を掲示し、紹介している。リビングは窓から入る陽ざしで明るく、テレビの周辺は椅子やソファがゆったりと配置してある。観葉植物や鉢植えの花がところどころに置いてあり、季節を感じることができる。台所は、利用者がおやつづくりをしやすいように工夫し、御飯の炊ける匂いや調理の音がして、生活感を感じることができる。温度、湿度、換気などに配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室では、定期的に席替えを行うなど、利用者同士が会話が弾むような席の配置や、利用者の希望に応じて静かな空間を作るなど工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で大切に使用していた愛着のある三面鏡やダンス等を自由に持ち込み、馴染みの生活の継続と、居室には好きな花や家族の写真、自身の作品等を飾って、それぞれの空間づくりの工夫をしている。	机、スタンド、テレビ、三面鏡、鉢植えの花、人形、時計、キリスト像、日用品など使い慣れたものや好みのものを持ち込み、家族の写真、ちぎり絵やぬり絵などの作品を飾って居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内での転倒のリスクが高い場所や職員の目の行き届きにくい場所の把握と、事故防止に配慮した環境整備に心掛けている。トイレの場所や自分の居室の場所がわかるように張り紙で表示するなどの工夫をしている。歩行補助具を利用する方への安全配慮も行っている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームさるびあ

作成日：平成 30 年 1 月 13 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し、全職員が実際の場面で活かせる技術の習得をする必要がある	応急手当や初期対応の訓練を定期的を実施し全職員が実践力を身につけることで、急変や事故発生時に、慌てず適切な行動がとれる	定期的に看護職員を講師とした内部研修や外部研修の参加、また消防署の協力を得て行う研修を実施し、応急手当や緊急時の初期対応について、全職員が実際の場面で活かせる技術の習得に取り組む	12ヶ月
2	5	運営推進会議ではサービスの向上にいかせるように、多方面からの意見や情報交換を行なうために参加メンバーの拡大として家族参加の工夫が必要である	運営推進会議に利用者や利用者家族に参加して頂き、意見や情報交換を行なうことでサービスの向上に活かす	運営推進会議の参加メンバーの拡大として、利用者や利用者家族に参加して頂き、提供しているサービスを明らかにして意見や情報交換をすることでサービスの質の確保に取り組む	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。